



BOULEVARD NIGHTS

すべては夜のブルバード
に起こった
血と暴力の青春グラフィティ



ブーレバード・ナイト

トニー・ビル・ビル・ベネンソン・プロダクション「ブーレバード・ナイト」/リチャード・イングレス・マルタ・デュボワ
ダニー・デ・ラ・バス/監督マイケル・プレスマン/製作ビル・ベネンソン/製作総指揮トニー・ビル/脚本デズモンド・ナカノ
音楽ラロ・シフリン/主題歌「ストリート・タトゥー」歌ージョージ・ベンソン/テクニカラー/ワーナー・ブラザーズ映画配給

DISTRIBUTED BY WARNER BROS. A WARNER COMMUNICATIONS COMPANY

オリジナル・サウンドトラック盤 ■ワーナー・バイオシア・レコード

死と背中合せの青春グラフィティ



レイモンド……リチャード・イニグエス
チュコ……ダニー・テ・ラ・パス



〈スティング〉のトニー・ビル製作
鋭い映像で描くマイケル・プレストン監督
〈燃えよドラゴン〉のラロ・シフリン音楽
日系の新鋭デスモンド中野 脚本

このところアメリカ映画には非行ドラマが続出し、それを見た少年が刺激されて本当に殺人騒ぎをひき起こすなど、エスカレートした輪はひろがる一方だが、この映画も、そんな騒ぎのまっただ中で作られ、賛否両論の嵐をまき起こした最新作である。脚本を書いたのは日系米人のUCLA在学デスモンド・ナカノ。新人脚本家の登龍門のひとつとも呼ぶべきUCLAゴールドウィン賞をみごと受賞したこのシナリオに目をつけたのが「スティング」や「タクシー・ドライバー」のプロデューサーとして有名なトニー・ビル。以前から少年非行の問題を新しいアングルからとらえたドラマを作りたいと考えていた彼の狙いにまさにピッタリだったのがナカノの受賞作だったわけ。リアリズムを期するため、出演者にはすべてラテン・アメリカ系の俳優。それもなるべく映画観客になじみのない新鮮な顔が選ばれた。



狂気のバイオレンスが吹き荒れる夜の大通り(ブルバード・ナイト)が俺たちのたまり場だぜ!

ロサンゼルス。夜。暑苦しい夜。若者たちのエネルギーを爆発させる夜が来た。ここはメキシコ系アメリカ人の住むダウンタウン。若者たちは思い思いに着飾って、ネオンきらめく大通りへとくり出す。ある者はギンギンの車を走らせ、ある者はデイスコへ、そしてまたある者は恋を求めて夜のブルバードは昼とは違った新しい顔をさらけ出す。

そこはまた不良グループの2大勢力が火花を散らす縄張りの接点でもあった。『V.G.V.』と『11番街ストリートター』がそれだ。もとV.G.V.の凄腕レイモンド(リチャード・イニグエス)は、いづれ自分の自動車修理工場を持つことを夢見て、今は真面目に働いている。シェイデイ(マルタ・デユ・ボア)という美しい恋人もいる。彼にとつてたつた一つの心配は弟のチュコ(ダニー・テ・ラ・パス)が今もV.G.V.に身を置き、定職も持たずにいることだった。11番街ストリートターとの小ぜり合いも回を重ねるごとに次第に狂暴になっていくようだし、いずれ死人が出ることは目に見えている。そんな心配が現実になったのは、レイモンドとシェイデイの結婚式の夜だった。家にも寄りつかなかったチュコがパーティーの最中に戻ってきた。心配していた母親が、喜び満面に可愛い息子とダンスを始めた瞬間だった。チュコをつけ狙っていた11番街ストリートターが無銃を発砲した。チュコを狙った弾丸は母親の背を貫いたのだ。レイモンドとチュコは怒りに燃えて、夜の街へ出かけて行った。

(上映時間 1時間41分)



非行少年に扮する者の中には、銀行強盗で短期刑を言い渡されて、撮影当時保護観察の身の上だったホンモノの犯罪者さえいる。もちろん撮影はすべて西ロサンゼルス市のメキシコ系アメリカ人居住区に現地ロケして行なわれ、改造したハイパワーの愛車を駆使するシーンなどには、現地のカー・クラブのメンバーが特別出演して迫力を盛りあげた。監督は新鋭マイケル・プレスマン、音楽を「ダーティハリー」燃えよドラゴンのラロ・シフリンが担当している、またクロス・オーバーの第一人者ジョージ・ベンソンの歌も挿入されている。

ブルバードナイト

近日ロードショウ!

*特別鑑賞券¥1000(当日¥1300の処)発売中!

丸の内松竹 (201) 3720

●国電有楽町下車 朝日新聞社裏

新宿京王地下 (356) 3518

●伊勢丹斜め向・三越ならび

日・祝	10:30	平日	12:35	2:45	4:55	7:05
-----	-------	----	-------	------	------	------